



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

なんにわ オープンデー

10月10日 (土曜日)

今年も開催!

「なんにわオープンデー!!!」

なんにわの畑でとれた新鮮な野菜をつかった料理、昨年大盛り上がりだったイケメンミュージシャンによるライブ、子どもたちのロシアルーレットたこ焼き、超レアカードが買えるカード屋さんなど、楽しめる内容になっています。ぜひ、きてください!



イラスト：numata



秋の一日、いつものとおり、のんびりゆっくりのイベントです。「子どもの居場所」に集まる子どもたち・若者とスタッフが企画。といっても、プログラムがばっちり決まっているというわけでもなく、毎日の居場所と同じように、おしゃべりしたり、好きな音楽を奏でたり。「居場所」って、どんな様子でやっているのかなという方も歓迎。ぜひ気軽におでかけください。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所 (日光市平ヶ崎)

日時：毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定はお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(Tel:090-3227-7079)

目次

オープンデーのお知らせ	1
「こんな本」の本棚	2
活動日誌	3
生活クラブ「風の村」視察	3
こんな本はいかが? 31	4

居場所のひとこま

パフェを作りました。ポッキー、シリアルコーン、ホイップクリーム、ホイップチョコクリーム、焼きプリン、果物の缶詰、バナナ、キウイなどを自由に組み合わせました。中学生が中心となり、居場所のスタッフ、利用者も楽しく作りました。こういうものは性格が出るようで、ていねいにバランスよく作るタイプと豪快に食べたいもののかたっぱしから投入し見た目も雑というタイプに別れていました。しかし、みんな、とてもおいしかったようです。(N)



「こんな本はいかが」の本棚

「こんな本はいかが？」コーナーが前回で30回。「何を書こうかな」と迷った末、「架空の本の読書感想文」の話にしよう書き始めるうちに以前の記憶がよみがえり、このネタは使ったと気付いたりすることが多々あります。バックナンバーを整理しておかないと、同じ本の感想を何度も書いたりしかねない。この機会に、いままで登場した本のリストを作ってみました。

山田さん、加藤さん、白井さん、みなさんの協力で成り立ってきたこの小欄。2007年から始まった書名をながめると、なんだか今までの歴史がちよっとだけ見えるような気がします。番号付けミスで「26」が欠番となっているのもこの作業で気がきました。

通信のバックナンバーは以下のアドレスに置いてあります。興味を持たれた方はぜひご覧ください。

(手塚)

<http://www.nantonakuno.net/hiroba.html>

- 01: 「歴史知の想像力 - 通時的・共時的に他者とどう関わるか -」石塚正英編 (理想社 2007)
- 02: 「トム・ソーヤーの冒険」マーク・トゥエイン 訳: 斎藤正二、角川文庫
- 03: 思考のフロンティア『教育』 広田照幸、岩波書店(2004)
- 04: 「思春期挫折症候群-現代の国民病-」稲村博 1983、「登校拒否・学校に行かないで生きる」渡辺位(編) 1983
「学校に背を向ける子どもたち-何が登校拒否を生み出すのか-」河合洋 1986
「アーベル指輪のおまじない-登校拒否児とともに生きて-」横湯園子 1992
「はれた日は学校をやすんで」西原理恵子 1998
- 05: 「ハマータウンの野郎ども 学校への反抗 労働への順応」ポール・ウィリス 熊沢誠、山田潤(訳) 1985
「学校に行かない僕から学校に行かない君へ-登校拒否・私たちの選択」東京シューレ編 1991
「不登校現象の社会学」森田洋司 1991、「心の専門家はいない 小沢牧子 2003
「不登校は終わらない-選択の物語から当事者の語りへ-」貴戸理恵 2004
- 06: 「ころ」 夏目漱石
- 07: 「あらしのよるに」シリーズ 木村裕一・作 あべ弘士・絵 講談社
「おおきな木」 シェル・シルヴァスタイン・作 ほんだ きんいちろう・訳 篠崎書林
- 08: 「罪と罰」ドストエフスキー
- 09: 「ばばあちゃんのおはなし」シリーズ さとう わきこ さく・え 福音館書店
- 10: 「枕草子」
- 11: 「ノタン ぶらんこのせて」おおともやすおみ・さちこ作・絵(借成社)
「ぐりとぐら」 中川李枝子 文、山脇百合子 絵(福音館書店)
「きよだいな きよだいな」 長谷川摂子 作、振矢なな 絵(福音館書店)
「14ひきのおつきみ」 いわむらかずお作(童心社)
「やさいのおなか」 きうちかつ さく・え(福音館書店)
- 12: 「ファーブル昆虫記」
- 13: 「落語絵本 ばけものつかい」川端誠 作 クレヨンハウス
「なんげえはなしっこしかへがな」北彰介・文 太田大八・絵: 銀河社
「じごくのそうべい」 たじまゆきひこ 作 童心社
「ひとりぼっちのさいしゅうれっしゃ」 いわむらかずお 作 借成社
- 14: 「徒然草」と「方丈記」
- 15: 「十二支のはじまり」 岩崎 京子・文 二俣 英五郎・画 教育画劇
「だんごどっこいしょ」 大川 悦生・作 長谷川 知子・絵 ポプラ社
「ガスペルとぼうや」 ミハエル・エンデ・文、ロスビーター・クォードフリーク・絵、矢川澄子・訳 ほるぷ出版
「モモ」 ミハエル・エンデ・作 大島 かおり・訳 岩波書店
- 16: 「渚にて」 ネヴィル・シュート 1957年 佐藤龍雄: 訳 創元SF文庫
- 17: 「気持ちの本」作・森田ゆり、絵・たくさんの子どもたち、童話館出版
「自分を好きになる本」 パット・パルマー・著、広瀬 弦・画、径(こみち)書房
「おとなになる本」 パット・パルマー・著、広瀬 弦・画、径書房
「夢をかなえる本」 パット・パルマー・著、広瀬 弦・画、径書房
「あなたが守る・・・あなたの心・あなたのからだ」 森田 ゆり・作、平野恵理子・絵、童話館出版
- 18: 「八郎」 斎藤隆介・作 滝平二郎・画 福音館書店
「花さき山」 斎藤隆介・作 滝平二郎・絵 岩崎書店、「モチモチの木」 斎藤隆介・作 滝平二郎・絵 岩崎書店
「ラヴ・ユー・フォーエバー」 ロバート・マンチ/作 梅田俊作/絵
- 19: 「自分と子どもを放射能から守るには」 世界文化社 ウラジーミル・バベンコ/ペララド放射能安全研究所(ペラルーシ)
- 20: 「地をほう風のように」 高橋秀雄・作 森英二郎・画 (福音館書店 2011年)
「なぜ、人は平気で『いじめ』をするのか？」 加野芳正・著(日本図書センター 2011年)
- 21: 女性漫画家3人(長谷川町子さん、みつはしちかこさん、西原理恵子さん)



(右ページへつづく)

☆ 活動日誌

- 7月19日(日) ベリー会：月例会
 7月24日(金)～8月2日(日) あさやサイエンスパーク・サポート
 7月25日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 7月29日(土) 通信「なんとなくのひろば」第40号 発行
 8月19日(水) やしお会(統合失調症親の会)参加
 8月22日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 8月23日(日) ベリー会：月例会&勉強会
 9月 2日(水) 第67回 理事会
 9月14日(月) 茶話会(第61回)
 9月20日(日) ベリー会：月例会
 9月26日(土) ワカモノフェスタ実行委員会

ワカモノフェスタ 2015 10周年記念

～ワカフェス ☆レボリューション!～
 日時:12月6日(日) 午前10時～午後6時
 宇都宮市 とちぎ青少年センター(アミークス)
 「サイエンスとおもちゃのカフェ」で参加予定

社会福祉法人 生活クラブ風の村(千葉県) 視察研修



7月13日(月) 視察研修の様子です。

左上:入口看板

左下:複合施設

デイサービス・サービス付き高齢者向け住宅・ショートステイ・訪問介護・診療所・訪問看護・ケアプランセンター・定期巡回ステーション・カフェ・放課後等デイサービス

右上:食堂(利用者さんごとに高さを

合わせたイスを使っています)

右下:入浴用のイスも工夫されています。

ホームページ: <http://niji-kaze.lolipop.jp/>



22:「西の魔女が死んだ」 梨木 香歩 作 小学館(1996年)、DVD版「西の魔女が死んだ」製作委員会(2008年)

「感じない子ども ころを扱えない大人」 巖(ほろいわ)奈々 著 集英社新書(2001年)

23:「奈々子に」より祝婚歌(吉野 弘 詩集、岩崎書店)

24:「ナボコフの文学講義」(上下2巻) ウラジミール・ナボコフ 河出文庫

25:「河合隼雄の“ころ”」 小学館 2008年

「Q&Aころの子育て」ー誕生から思春期までの48章ー 朝日新聞社 1999年

「ころの処方箋」 新潮社 1992年

「ココロの止まり木」 朝日新聞社 2004年

26:【欠番】

27:『『赤毛のアン』と花子』ー 翻訳家・村岡花子の物語 村岡恵理・著 学研教育出版 2014年

『『赤毛のアン』が教えてくれた大切なこと』 茂木健一郎・著 PHP研究所 2013年

上橋菜穂子さんの本 守り人シリーズ:「精霊の守り人」、「闇の守り人」など 「鹿の王」上・下 角川書店

28:「へいわってどんなこと?」 浜田桂子 童心社 2011年

「てとてとてとて」 浜田桂子 福音館書店 2002年

「あげます。」 浜田桂子 ポプラ社 2014年

29:「電気がなくても、人は死なない」元・東電原子炉設計者が教える楽しい「減電ライフ」 木村俊雄:著 洋泉社

30:「ぼくがラーメンをたべてるとき」 作・絵:長谷川義史、教育画劇(2007)

「ローザ」 文:ニッキ・ジョヴァンニ、絵:ブライアン・コリアー、光村教育図書(2007)

「ぼくたちは、なぜ、学校へ行くのか。」 文:石井光太 ポプラ社(2013)

特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631

E-mail: info@nantonakuno.net

ホームページもご覧ください。

http://www.nantonakuno.net/



こんな本はいかが？

その 31: 「友情」をテーマにした絵本

今回は、「友情」をテーマに絵本を選んでみました。絵本作家の内田麟太郎さんは、「おれたちともだち！」という絵本のシリーズを出していて、キツネとオオカミが主に出てきます。ともだちって、多くの人が使う言葉だけれど、案外深い意味を持っている言葉かも…。

① 「あいつもともだち」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵(偕成社 2004)

キツネは、オオカミさんとともだちです。イノシシさんとイタチさんとクマさんとヤマネさんともだちです。じゃあ、あいつは？ あいつはともだちかなあ？ 考えていたらこんがらがって、わからなくなっちゃったんだって…。

② 「ともだちや」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵 (偕成社 1998)

キツネは、ともだちやさんをはじめのことを思いつきました。一時間百円でともだちになってあげるのです。ともだちって、売れるのかなあ？ 買えるのかなあ？

③ 「ともだちおまじない」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵 (偕成社 2006)

ともだちおまじないは、ともだちほしい人にだけきく、ちょっとすてきなおまじないなんです。となえてみたら…あらふしぎ！！！！
この他にも「あしたともだち」、「ともだちひきとりや」、「ごめんねともだち」などもあります。

大人向けの本として、もう1冊紹介します。中学生や高校生、大学生…いやいや大人だって、今の世の中、友だち作りがとても難しいのです。ネット社会が友だち作りを簡単にしていると思いきや、「ほんとうの友だち」は、なかなか簡単にはできないのです。

◎ 「大人の友情」 河合隼雄・著 (朝日新聞社 2005)

以前に紹介した、「ココロの止まり木」に、「友情」という題で書かれたこんな文がありました。「友情は人間にとって非常に大切なものである。夫婦、親子、きょうだい、上司と部下、あらゆる人間関係において、それが深まってくると、その底に友情がはたらいっていることに気づくだろう」と。私はこの言葉がとても好きで、夫婦や親子の問題を考えると、「友情」という視点をもっていると、考え方が変わるかもしれないと思っています。この本は、様々な大人の友情について書かれています。是非読んでいただきたい一冊です。(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：43

賛助会員：19

団体会員：4

入会金はありません。

年会費(一口)

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円

団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

郵便受けに岩波書店の「図書」(岩波書店)が届いていて、高橋源一郎さんの講演録があった。その中で引用されたスーザン・ソントグのことは■「意見というものの困った点は、私たちはそれに固着しがちだ」という点である。何ごとであれ、そこにはつねに、それ以上のことがある。どんな出来事でも、ほかにも出来事がある」■ニューヨーク生まれの作家・知識人・運動家のソントグは、多くの著書や言葉を残した。その言葉の断片を知る程度で、とくに興味を持ったことはない。先入観を持つこと、固定観念で世界を眺めることをできるだけ避けるという姿勢が、いまあらためて注意を引いているのだろう■論じた芸術分野が多岐にわたり、評論を読んで知らない名前がたくさん出てくる。とても「おすすめ本」とは言えないけれど、警句集として読むと興味深いのではないかと思う■「暴力を嫌悪すること、政府に懐疑的であること、目の前で起きていることに注意を向けること」(T)